

# 学びの 広場

地域で学び、活動する  
皆さんを応援します  
北秋田市教育委員会



- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ

## 母親だからできること 「子どもを『メシが食える大人』に育てる

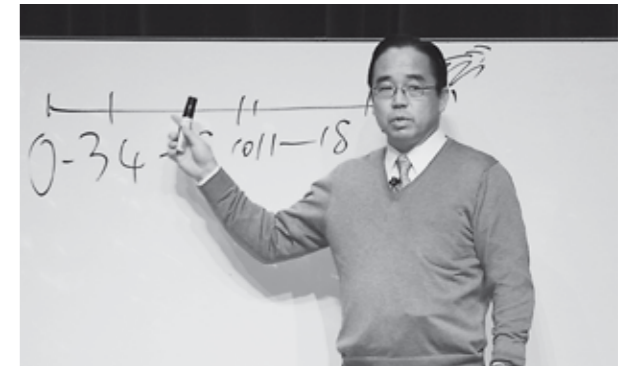
～教育講演会 IN 北秋田市～

教育講演会 IN 北秋田市が3月14日、文化会館で開かれ、教育関係者や保護者など約400人の参加者が子育てについて理解を深めました。

講師の高濱正伸氏（花まる学習会代表）は、10歳までの教育にこだわる独自の教育方針に基づいた野外体験や学習会を173教室主宰しています。

高濱氏は、自らのいじめられた経験談のほか、教育について「どんな時代にも一人でメシが食える大人に育てるためには、母親の笑顔と心の安定が重要。母親は命の中心であり、子育てに孤独を

感じる母親を、父親や地域が支えて行かなければならない」などと説かれました。



▲「幼児期の親子の関係が大切」と高濱氏

## 地域の歴史文化を学ぶ

～合川ろばた講座～

合川公民館主催の「ろばた講座」が3月7日、合川農村環境改善センターで開かれ、60人あまりが参加し講話に耳を傾けました。

年3回開催されるこの講座は、「明日に向けた社会学」を掲げた長年継続している市民公開講座です。

今年度第3回目は、合川文化財保護協会と合川地方史研究会の共催で、地元新田寺の保坂春聴住職から講話をいただきました。

保坂住職は、「地域にはそれぞれに歴史があり、お寺の系統や地域行事などを辿ると、時代背景が

甦る」と古い資料や言い伝えをひもときながら、その奥深さと重要性をしみじみと語られました。



▲「しんでん寺？ につた寺？」と題しての講話

## 文化遺産を観光資源に

～文化遺産保存活用シンポジウム～

北秋田市文化遺産保存活用実行委員会（照内捷二実行委員長）が主催する文化遺産保存活用シンポジウムが3月17日、東京藝術大学の枝川明敬教授を講師に招き、コンベンションホール四季美館で開催されました。

『文化遺産を活かした地域活性化の取り組み』と題した枝川教授の基調講演のほか、市文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業により活動している市内7地区の取り組みの紹介や、『地域のたから・文化遺産の活かし方』についてのパネルディ

スカッションが行われ、文化遺産の掘り起こしや活かし方などについて意見交換が行われました。



▲枝川教授の基調講演に聞き入る参加者の皆さん

## 高齢者大学受講生募集！ 各大学とも5月開講です

平成25年度高齢者大学を各地区で開講します。受講を希望される方は、生涯学習課・各公民館へお申し込みください。

### ■高鷹大学

テーマ 「仲間との絆を深め、ともに学ぼう」

内容 全体講座など年6回程度／クラブ活動は月1～2回

対象 55才以上の方

受付 4月1日(月)～4月16日(火)

開校 生涯学習課 ☎62-1130

### ■合川こびぎ大学

テーマ 「学び続ける喜びの発見と仲間作り」

内容 年8回実施の予定(学習会、移動研修、スポーツレクなど)

対象 55才以上の方

受付 4月1日(月)～4月19日(金)

開校 合川公民館 ☎78-2114

### ■森吉大学

テーマ 「続・新たな生きがい挑戦してみよう」

内容 年6回実施の予定(講演会、移動研修、学習会など)

対象 55才以上の方

受付 4月1日(月)～4月25日(木)

開校 森吉公民館 ☎72-3259

## ■阿仁生き生き大学

テーマ 「仲間とともに学び新たな生きがいに挑戦してみよう」

内容 年6回実施の予定(講演会、移動研修、スポーツ交流など)

対象 55才以上の方

受付 4月1日(月)～4月25日(木)

開校 阿仁公民館 ☎82-2220

## 中央公民館通年講座募集

開校 中央公民館 ☎62-1130

### ■母と子のわくわく広場

入園前(満1歳以上)の子どもと保護者を対象に、親子で身体を動かしたり、遊びを通してふれあいを大切にしたい講座です。

開催日 毎月第2月曜日

ただし、4月は15日(月)に行います。

時間 10時～11時30分

会場 中央公民館

参加料 無料 定員 30組



## 公民館使用料減免登録申請

開校 各公民館

公民館を使用する団体で、今年度の交付を希望する団体は、各公民館に申請してください。

昨年度交付された団体であっても、新たに申請が必要です。

## ふるさとの文化財

61

### 北秋田市指定有形文化財 (古文書)

#### ○「永年記」

◇所在地 花園町15-1

◇管理者 北秋田市教育委員会

鷹巣村の肝煎であった成田兵左衛門が書いたもので、江戸時代の農事記録としてとても貴重な内容です。藩政初期の元和年間(1615～1628年)から幕末に近い嘉永年間(1848～1853年)までの約230年間の作柄天候、米価、諸物価の変動、鷹巣市場の盛況、世相等が記録されています。特に、凶年作の気象や被害状況が詳しく記録されていて、今日でも分かり易くとても興味深い記録です。

この中で、弘化3年(1864年)の記録は、この年の豊作や農業気象、稲の生育状況、世の中の事情等を詳しく記録しており、特に兵左衛門の自作田から採取した「八重穂」の記事は、成田家所蔵の写生図とともに当時の稲作観を知るうえで貴重な資料と言われています。「八重穂」の稲の写生図は、兵左衛門の子庫之助が描いたものです。

なお、農事記録の前半は郡奉行の、中盤は郷中記録を参照したと思われませんが、天保年間以降の記録は、兵左衛門自身の綿密な日常

メモから整理した記述と考えられています。

◇成田兵左衛門元長 1778～1848年。代々肝煎を務める成田家に生まれ、幼い頃から和漢の学問を学び、和歌なども修めた。24歳の時肝煎となり37年間務めた。彼にとつて最大の課題は村民を餓死から守ることであった。そのため毎年洪水で壊される用水路を直すこと、凶作に備え米を貯えることであり、それらを成し遂げた。そして、家々の主人を寺に集め日頃から質素節約を説いた。天保4年大飢饉の時には郷庫の米を村民に分け与え、村内では1人の餓死者も出さなかったという。備荒米の必要なことを村人に知らせるために、絵師に描かせた掛図(市指定文化財)が残されている。

▽平成元年10月1日指定文化財  
▽資料/「鷹巣町の文化財」「文化財総合的把握モデル事業」ほか  
▽紹介者/北秋田市文化財保護審議会委員 照内捷二



▲市指定有形文化財「永年記」